

この花にとってはありがたい来訪者であった。

調査 神奈川県鎌倉 1961年11月, 東京都八王子 1964年10月, 埼玉県入間 1971年10月。

おわりにご指導いただいた元国立科学博物館植物研究部長の佐竹義輔博士に感謝します。

文 献

- 1) クーグレル 1966. 花生態学.
- 2) 森川国康 1969. 花の進化と虫媒(補遺) 植物と自然 3(8).
- 3) 田中 肇 1964. マメ科植物若干種の受粉のしくみ 自然科学と博物館 31(9-10).
- 4) Faegri, K. & van der Pijil, L. 1966 The principles of pollination ecology.
- 5) 田中忠次 1959. 採集と飼育 21(4).
- 6) ——— 1960. 同上 22(5).
- 7) ——— 1951. 同上 13(10).
- 8) 古出俊子 1961. 採集と飼育 23(3).
- 9) 井上丹治 1954. 蜜源植物綜説.
- 10) 関口喜一 1949. 日本の養蜂植物.

Summary

1. The corolla of *Plectranthus inflexus* Vahl. has nectar guides on its upper lip. Its lower lip is a landing place and a case of anthers and a stigma. Its form and function are identical with those of a leguminous flower belonging to a flag blossom.

2. The flowers of *P. inflexus* were visited by five species of Hymenoptera, five species of Lepidoptera, four species of Diptera and one species of Thysanoptera.

○マツヨイグサ属雑記(1) (浅井康宏) Yasuhiro ASAI: Notes on some species of *Oenothera* in Japan (1)

周知の通り, マツヨイグサ属 *Oenothera* は主に北アメリカに分布し, 少数のものが南アメリカに生育しており, 100種内外があるとされているが, その実態はつかみにくい。

それと云うのも本属のものは, いずれも極めて多型であり, いわゆる種内変異の巾の大きなものが多く, 環境によっても変化しやすく, しかも相互に雑種を作るなどの特徴をもつことに因く。従って, 原産地においても *Rubus* や *Crepis* などと共に, 極めて分類困難なもの1つとされ, 従来, 本属を主に蒴果や萼筒の特徴, 形あるいは全体の性状などによって10程度の亜属に分け, 整理されているのも当然と思われる。

ところで筆者は、我国のいわゆる帰化植物の中でも、かなり顕著な特徴をもち、しかも広分布を示している本属に特に興味を抱き、10 余年に亘って調査を続けてきた。しかしながら前述の通り、この仲間の実態を明確にすることが、その 2 次的生育地(渡来地)である我国では、正に至難の枝と云っても決して過言でなく、ほとんど不可能に近いと考えられる。そこで筆者は、その不備を補う一助として、現在までに得た調査資料を、一応上掲の表題の下にまとめ、いささか知見を述べ、御参考に供したいと思う。

なお、長年に亘り本問題に関して種々御教導を賜った東邦大学名誉教授久内清孝先生及び多忙な御研究の中を、種々御教示、御鞭撻下さった東京大学理学部の原 寛博士ならびに貴重な資料を御提供戴いた同学諸氏に対し、厚く御礼申し上げます。

1. ミズーリマツヨイグサ(新称) 最近、筆者は草丈低く、葉は線状披針形で、光沢を帯び、かなり大形の花弁をつけ、ちょうど遠くから見るとオオマツヨイグサの貧弱型を想わせるような本属の 1 種が東京近郊などに栽培され、また稀に逸出しているのに気付いた。これは云うまでもなく、北米合衆国原産の *Oenothera missouriensis* Sims であって、彼地でも *Oe. speciosa* Nuttall などと共に、夙に園養品として庭園の border 用に賞用されているもので、その特徴ある草姿、就中広い翼をもつ蒴果の形状により、容易に本種と判定することが出来た。

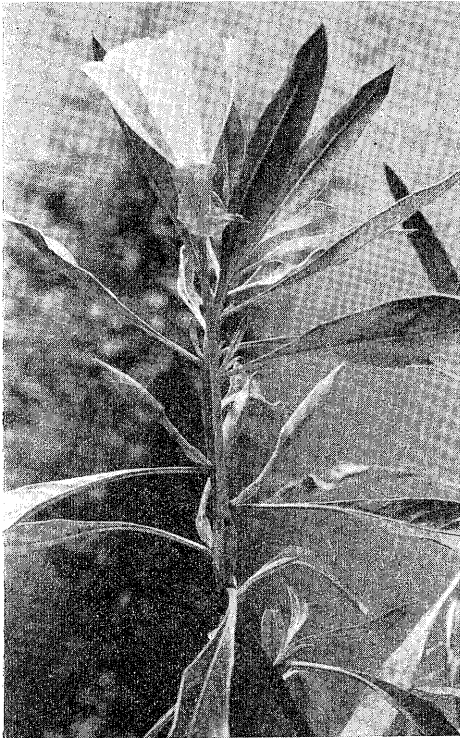


Fig. 1. *Oenothera missouriensis* Sims with a fading flower (Photographed by Y. Asai on June 12, 1972).

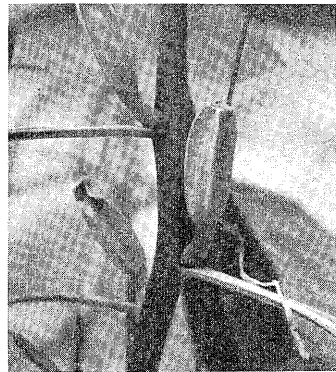


Fig. 2. Immature capsules of *Oe. missouriensis* Sims.

その概形を記せば、次のようなものである。多年草で、地下に白色の太い直根をもつ。茎は株ぎわから分岐し、紅色を帯び、やや横臥、斜上伸長して 50 cm 許に達し、通常臥毛（微軟毛）を密布する。葉は互生し線状広披針形で、厚ぼったく、光沢があり、長さ 5~10 cm 許で、先端は尖り、長柄をもつ。葉縁はほとんど全辺で、わずかに浅鋸歯をもつことがあり、葉裏に軟毛を密布する。花は葉腋に 1 花をつけ、ほとんどが無柄で、通常蕾の時には茎と離れて開出斜上しているが、しかし開花時には、Fig. 1 に示すように萼筒が、既に我国へ渡来している各種と異り、ほとんど茎に沿って密着するように上向、伸長し、長さ 10 cm 許にもなる特徴をもつ。萼片は線状披針形で 2~4 cm 許。花弁は黄色で卵円形状を呈し、5~7 cm 許で、先端の中央部が微かに窪む。雄蕊は 8 個。なお、蒴果は大きく 4~7 cm 許で、Fig. 2 に示すような広翼（4 稜の）をもつ。

本種の花期は初夏から夏（5~8 月）に及び、夕刻開き、翌朝まで咲き続けるもので、いわゆる Evening Primrose のグループ（筆者のいう“夜咲き型”で、これに対して Sundrop と呼ばれ、朝開き、午後しばむグループを筆者は便宜上“昼咲き型”と称している）に属する。

なお、本種の本産地の北米合衆国では、種名が示すようにミズーリ州からカンザス、ネブラスカからテキサスの諸州にかけて分布し、特に日当りのよい、石灰分に富んだ岩礫地や草原などに好んで生育している由である。そして前述の通り、本種は北アメリカでも、しばしば栽培されているが、特に、その性質から、いわゆるロックガーデンに用いられているとのことで、我国でも今後、この目的に賞用されるであろう。

さて最後に本種の学名であるが、現在、一般に *Oenothera missouriensis* Sims に当てられている。しかし種を大きくみて *Oe. macrocarpa* Nuttall に含める見解もあるが、ここでは彼地における現在の一般的な考え方に従っておく。因みに、冒頭に述べたように、さらに本属を細分して考える場合には、*Megapterium missouriense* Spach となる。

いずれにしても本種は、現在、我国へ渡来しているものの中で、*Oe. tetraptera* Cavanilles と共に、極めて特異なグループに属するものである。恐らく将来、広く各地の荒蕪地、海浜砂地、河原などに逸出帰化する可能性がある。同学諸氏の注意を望みたい。

なお和名は、筆者が従来、同学諸氏の求めに応じて本種を検定した際、一応便宜的に、その特徴ある長い萼筒に基づいて、ナガエ（長柄）マツヨイグサと仮称しておいた。しかし、本種の米名 Missouri primrose に因んで、ミズーリマツヨイグサと呼んだ方が、より適切であると考えるので、ここに披露しておきたい。（東京歯科大学）

Summary

A North American evening primrose, *Oenothera missouriensis* Sims, was recently introduced to Japan for ornamental purposes. At present, the showy Missouri Primrose is seldom escaped from cultivation in sunny waste places around cities, and has begun to be semi-naturalized.

○台湾産タロコソウの染色体 (黒澤幸子) Sachiko KUROSAWA: Chromosomes of *Veronicastrum Kitamurae* from Taiwan

タロコソウ *Veronicastrum Kitamurae* (Ohwi) Yamazaki の種子を山崎敬博士が 1969 年台湾溪頭で採集してこられた。タロコソウは台湾特産の珍しい植物で初め *Calorhabdos* 属の新種として記載され後にズカケソウ属に移された。この仲間の染色体はまだ一度も報告されていないので調べた結果, Fig. 1 に示したように根端細胞で $2n=68$ の染色体を認めた。

1957 年山崎博士はこの類をクガイソウ属 (*Veronicastrum*) に合一されたが、今回の染色体の観察からもその見解が支持されるように思われる。クガイソウ属で染色体

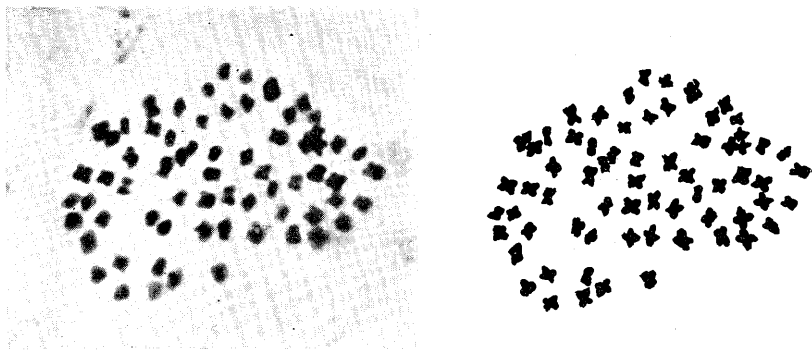


Fig. 1. Photomicrographs of somatic chromosomes ($2n=68$) of *Veronicastrum Kitamurae* (Ohwi) Yamazaki from Chi-tou, Pref. Nan-tou, Taiwan. $\times 2000$.

が調べられたものは北米産の *Veronicastrum virginicum* (L.) Farw. が $2n=34$ (Huber, 1927; Smith, E. B. 1965), シベリア東部のシベリアクガイソウ *Veronicastrum sibiricum* (L.) Pennell が $2n=34$ (Meschkova, 1965; Sokolovskaya, 1966) ツクシクガイソウ var. *Zucarinii* (Koidzumi) Hara も $2n=34$ (Yamazaki & Tateoka, 1959) であるが、クガイソウ var. *japonicum* (Nakai) Hara は $2n=68$ (Yamazaki & Tateoka, 1959) と報告されている。何れも基本数は 17 でその 2 倍体又は 4 倍体である。

(東京大学理学部植物学教室)